

千葉県立中央博物館
令和7年度トピックス展

民俗学の父

柳田國男

—本から読み解く暮らしへのまなざし—

4/15
火



6/15
日

会場 千葉県立中央博物館 第2企画展示室ほか

入場料 一般 300円(240円)、高・大学生 150円(120円)

ミュージアムトーク(研究員による展示解説)

4月20日(日) 5月4日(日・祝)、5月17日(土)、

5月31日(土)、6月14日(土)



展示情報



昭和16年 遠山小学校講堂前にて(現・成田市)
中央・帽子の人物が柳田國男 個人蔵

2025年（令和7年）は民俗学者・柳田國男の生誕150周年です。

本展示では2023年（令和5年）に当館へ寄贈された柳田國男著作初版本コレクションを主な展示資料として、民俗学者・柳田國男と千葉の関わりや、柳田がなぜ民の暮らしに関心をもち、いかにしてそれを明らかにしようとしたかをご紹介します。

第1章 幼少期の好奇心

のちの柳田に影響を与えたこども時代の体験とは。

第4章 こどもたちのことば

こどもの使う言葉への興味、そして柳田による教科書監修。

第6章 柳田國男と千葉



（左）柳田國男、（右）成田に住んだ作家の水野葉舟（個人蔵）



「初期三部作」と呼ばれる『後狩詞記』『石神問答』『遠野物語』（当館蔵）

第2章 「民の暮らし」へのまなざし

農政官僚としての経験、文人たちとの交流をもとに柳田は執筆を始める。



『山村生活の研究』『こども風土記』（当館蔵）

第3章 あつめて くらべる

ことばの収集や、全国各地での聞き書きをもとにした研究の成果。



『日本昔話集(上)』『退読書歴』（当館蔵）

第5章 書籍を彩った人々 —装幀・挿画・題字—

柳田著作本の装幀や挿絵を手掛けた人物たちとは。

第7章 生きものへのまなざし

生きものの呼び名、その豊かさや生活における使い方への関心。



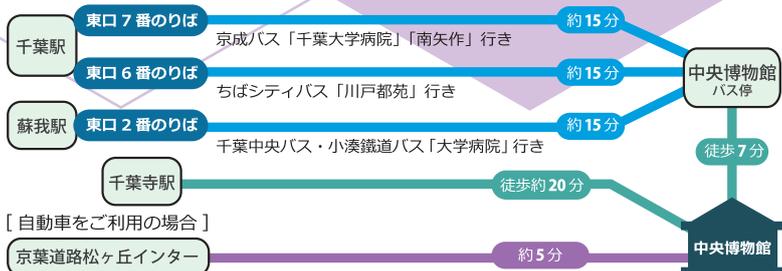
『野草雑記・野鳥雑記』（当館蔵）

新発見 柳田國男直筆原稿・メモ

新たに発見された直筆原稿などを展示。



原稿『大白神考』序文（当館蔵）



千葉県立中央博物館

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2（青葉の森公園内）
TEL 043-265-3111（代表）

- JR千葉駅東口から、バス約15分「中央博物館」下車＋徒歩約7分
- JR蘇我駅東口から、バス約15分「中央博物館」下車＋徒歩約6分
- 京成千葉寺駅から、徒歩約20分
- 自動車の方は「青葉の森公園北口駐車場」（有料）をご利用ください



中央博 X @chiba_chuohaku